

日本共産党県会議員



おくむらのり子 県政だより

日本共産党和歌山県議団

2014年5月

和歌山市小松原通 1-1 県庁内
TEL : 073-425-1138
FAX : 073-425-1143
E-Mail : w-jcpken@naxnet.or.jp

多くの高齢者が 介護サービスからはずされる 改悪法案に反対を!



デイサービスの利用者さんと



介護事業所のみなさんと懇談

政府が提出した介護保険改悪法案

- 「要支援」の方の訪問介護やデイサービスを介護保険からはずす
- 特別養護老人ホーム入所を要介護3以上に限定
- 所得160万円以上の人の利用料を2倍に

いま国会で審議されている介護保険改悪法案は、要支援者から介護サービスを取りあげるなど、多くの高齢者を介護保険から締め出そうとしています。市町村事業でボランティアなどによる見守りや配食サービスに代えるとしていますが、サービスは大きく後退します。

おくむら県議は、法改悪を許さず要支援者の訪問介護やデイサービスを介護保険で行うよう県議会で主張、反対運動にも取り組んでいます。



予算特別委員会での質問

高すぎる介護保険料

和歌山市の介護保険料は 2000 年の制度開始時の月額 3,117 円（基準額）から 3 年ごとの見直しのたびに値上げされ、現在は 5,813 円です。

おくむら県議は、高すぎる介護保険料に多くの人から悲鳴が上がっていることを県議会で繰り返し指摘。2 年前の保険料見直しのさいには、県の積立金である基金をとりくずし保険料の負担軽減にあてるべきと主張しましたが、県は基金として積み立てたままです。来年には保

険料の見直しが行われます。おくむら県議は、保険料引き下げを国や県に求めています。

介護現場は深刻な人材不足 処遇改善で養成の強化を

介護現場は非正規職員の割合が高く、賃金も全産業の平均より大幅に低いことから人材不足が深刻です。高齢化が進むなか、県の介護職員養成強化への取り組みと国庫負担による介護事業者・従事者の処遇改善をおくむら県議は求めています。

憲法いかし、命かがやく県政へ全力

日本共産党

おくむらのり子



医療

医師増やし地域医療守れ！ 医大定員が60から100に増



日高看護専門学校

おくむら県議は深刻な医師不足の問題で、医師を増やし地域医療を充実させることをくり返し要求。2007年には60名であった県立医科大学の入学定員が現在100名まで増員されました。

看護師の増員求め 院内保育・学童保育や看護学校が増設

看護師不足も深刻です。看護師が働き続けられるよう病院内の保育所と学童保育を増やすことを要望するとともに、看護学校の増設を求めました。2007年には28カ所

の院内保育所が33カ所に、学童保育は129カ所から186カ所に増え(昨年4月時点)、今年4月には日高地方に看護専門学校が開校しました。

命にかかわる高い国保料の引き下げを

国保料が払えず保険証を取り上げられ、受診をガマンし重症化する方が後を絶ちません。高すぎる国保料は生存権にかかわる問題です。国の財政負担の増額と、県から市町村への支援で、国保料を引き下げを求めています。

子育て

子どもの医療費無料を中学卒業までに！ 切実な声 議会にとどける

おくむら県議は、子育て世代のお母さんたちの「毎月子どもの医療費の出費で大変」「医療費がかかるので少しの熱ぐらいならガマンさせてしまう」という切実な声や、自ら取り組んだくらしの要求アンケートでも子どもの医療費無料化の拡充が上位であることを紹介。県として中学校卒業まで無料にするよう訴え続けています。

和歌山市では入院のみ小学校卒業までで、通院は小学校入学までです。和歌山市で中学卒業まで医療費無料を訴える署名が広がっています。

返済不要の給付制奨学金が実現 高校・高等専門学校・専修学校生へ

日本共産党県議団は、高校生を支援する奨学金を「貸付」ではなく返済のいらぬ「給付制」にすることをくり返し求めてきました。今年度から国で給付制奨学金が予算化され、県の制度で非課税世帯の新1年生から順次給付されることになりました。

給付の一例

第1子の高校生等がいる世帯

国公立	37,400円
私立	38,000円

県内の子ども通院医療費無料制度の実施状況



防災

津波避難対策を 早急に

おくむら県議は「周囲に高い建物が一つもなく津波がこわい」という住民の声を紹介し、避難場所や避難路を早急に増やすことを要求。現在、事業が進められています。さらに、障害がある人や高齢者など要援護者の避難を支援することを求め、県は「災害時要援護者支援マニュアル」を作成しました。



避難所に指定されている雄湊小学校

保育所の耐震化は緊急の課題

保育所の耐震化は県内全体で8割程度しか進んでいません。おくむら県議は緊急の課題であるとして早期に完了するよう求め続けています。



環境

和歌山市の産廃計画に ストップを！



和歌山市の滝畑地域で日本最大級の産廃処分場建設が計画されています。地元住民のみなさんの取り組みで、和歌山市長に12万筆の反対署名が届けられました。

処分場が建設されれば、生活用水を取水している滝畑川や紀の川にも汚染水が流れこむ危険があります。さらに、高い確率で震度6強の地震発生が予測される地域であるうえ、地滑りや崩壊の多発地帯であり、地震や大雨で土砂崩れがおこれば処分場が壊れ廃棄物が流れ出す可能性があります。

おくむら県議はこの問題を何度も議会で取り上げ、計画中止を訴え続けています。



加太駅前 駐輪場設置が実現

南海電鉄加太駅前、県道に大量の自転車・バイクがとめられ、高齢者や障害者にとって大変危険なことから、駅前への駐輪場設置を求めました。

昨年6月に和歌山市で予算化され、今年4月に加太駅前に50台規模の駐輪場が設置されました。



和歌山市内の指定・整備状況

屋外避難所	161
避難生活が可能避難所	99
避難ビル	39
避難路	10

おくむらのり子
東京西走



原発ゼロ集会



南海和歌山市駅ホームへのエレベーター設置が実現



なんでも相談村



スリーウェーブ・パレード



労働組合のみなさんと懇談



市駅前早朝宣伝



和歌山市内の大雨被害調査

買い物できなくなる!! 高島屋が8月末閉店へ ご意見・ご要望をおよせ下さい

おくむら県議は、高島屋和歌山店が閉店する問題で、周辺住民への影響アンケート調査を実施。「買い物する所がなくなる」「閉店になれば商売もあかん」という声を議会で紹介し、空洞化が深刻な中心市街地のまちづくりと和歌山市駅周辺への公衆トイレ設置などを求めました。



市駅周辺影響アンケート

現在、市駅周辺の再開発等の検討が南海電鉄や県、市などですすめられています。みなさんの声をおよせ下さい。

E-mail w-jcpken@naxnet.or.jp

FAX073-425-1143 TEL073-425-1138

求職者へのアンケート 調査に取り組み 若者の雇用対策求める

おくむら県議は、民青同盟やローカルユニオンの人たちとともに求職者への生活実態アンケート調査を行いました。解雇や賃金・残業代未払い、長時間労働などにより離職に追い込まれている若者の実態が明らかになるとともに、その半数近くの人が非正規雇用などで年収200万円以下の働く貧困層であることがわかりました。



おくむら議員は県議会で、県独自の若者雇用対策や国と連携した対応、労働者を守る関係法規の内容の周知などを求めました。

県の2014年度予算は5681億円 その問題点とは

消費税増税で社会保障は 充実されず

消費税増税により、県民文化会館や県立体育館の使用料などを値上げします。地方消費税の増税で県も18億円増収になりますが、「社会保障の拡充」にあてられるのは、国民健康保険料・後期高齢者医療保険料の低所得者減額の対象を増やすなど、8.5億円にとどまっています。



税金ムダづかいの 紀淡海峡ルート計画が復活 老朽化対策費は不十分

公共事業では、道路の新設などに約365億円が計上される一方、緊急の課題である道路の老朽化対策や橋の耐震化、沿岸部の地震・津波対策の費用は71億円だけです。

かつてムダな大型公共事業として凍結されていた和歌山市と淡路島を結ぶ「紀淡連絡道路」計画が「国土強靱化」の名のもとで復活し、広報活動費などがもりこまれました。

危険なオスプレイ

県防災訓練への参加に抗議

今年10月の県防災訓練に米軍輸送機オスプレイが参加しようとしています。仁坂知事は「MV22オスプレイは安全性の低い航空機だとは思っていない」と歓迎しました。

日本共産党県議団は、配備された沖縄や訓練予定地では「危険な航空機」だとして大きな反対の声があがっているオスプレイの参加は撤回するよう求めました。



MV22 オスプレイ(在日米海兵隊公式サイトより)